

2022年12月期



決算補足説明資料

株式会社テクノフレックス
証券コード:3449

- ✓ 本資料に記載された将来の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき作成されたものであり、将来発生する様々な要因により、異なる結果となる可能性を含みます。
- ✓ 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)を適用しております。
- ✓ 2021年12月期の実績は「収益認識に関する会計基準」を適用する前の数値を記載しております。
- ✓ 2022年12月期と2021年12月期以前とを比較した記載は、会計基準が異なることから、参考情報として記載しております。
- ✓ 2022年4月1日付で、連結対象の完全子会社「株式会社アクアリザーブ」と合併いたしました。これに伴い、当期第1四半期までは「防災・工事事業」としておりました「防災用貯給水タンク」の業績を、当期第2四半期から「継手事業」にセグメント変更いたしました。そのため本資料では、セグメント変更後の数値を、参考情報として記載しております。

1. 2022年12月期 決算概要

2. 2023年12月期 業績予想

3. 配当金について

4. 決算説明動画のご案内

(補足資料)テクノフレックスの概要



1. 2022年12月期 決算概要

2022年12月期 連結業績 1 前年同期比・計画比



◆ 連結業績(前期比・計画比)

単位:百万円

	連結業績		前期比		計画比(進捗率)		
	2021_期末	2022_期末	伸長額	伸長率	期初・修正後	計画値	達成率
連結売上高	19,633	22,174	2,541	12.9%	期初計画	20,650	107.4%
					修正後計画	21,700	102.2%
連結営業利益	2,615	2,752	137	5.2%	期初計画	2,500	110.1%
					修正後計画	2,600	105.9%
親会社株主に帰属する 当期/四半期純利益	1,718	2,413	694	40.4%	期初計画	1,850	130.5%
					修正後計画	2,350	102.7%

- ✓ 2022年12月期は、4つの事業セグメントの内の3つの事業(継手事業、防災・工事事業および自動車・ロボット事業)が、年間を通じて好調でありました。
- ✓ 2022年12月15日付で通期業績予想の上方修正を行いましたが、4Qも好調を維持し、修正後の業績予想を上回る結果となりました。

● 連結売上高

- ✓ 2022年12月期は、年間を通じて市場環境が概ね良好であり、全ての事業セグメントで売上高が前期比プラスとなりました。
- ✓ その結果、連結売上高は、前期比+2,541百万円(伸長率+12.9%)となり、連結売上高は、200億円を超えました。

● 連結営業利益

- ✓ 円安要因を含む原材料価格の上昇等により、利益率の低下が生じましたが、連結売上高の増加により、連結営業利益が増加しました。
- ✓ その結果、連結営業利益は、前期比+137百万円(伸長率+5.2%)となりました。

● 親会社株主に帰属する四半期純利益

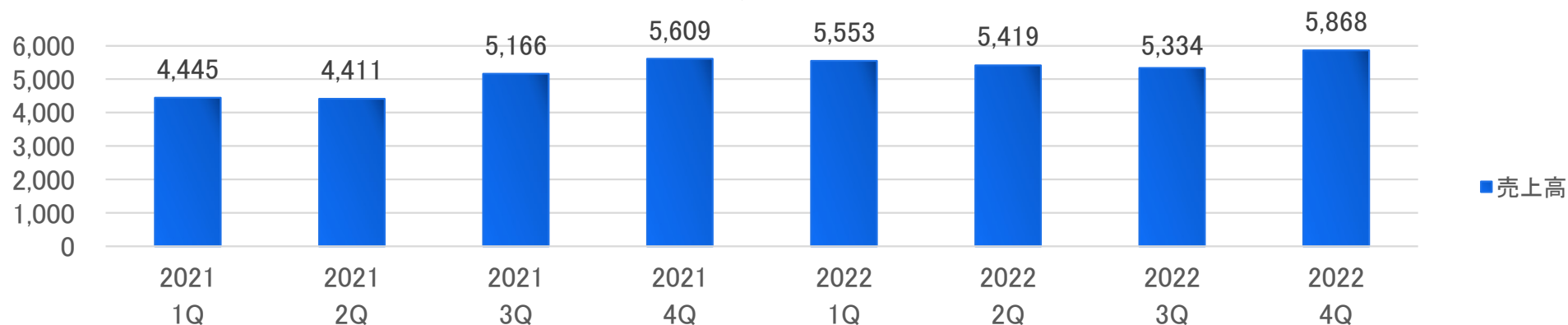
- ✓ 連結営業利益の増加により、親会社株主に帰属する四半期純利益が増加しました。
- ✓ また、連結子会社であった(株)アクアリザーブを吸収合併したことから、2Qに法人税等調整額(益)566百万円を計上したため、大幅な増益となりました。
- ✓ 千葉工場の拡張工事に伴う旧工場の解体費用等約152百万円を、4Qに特別損失として計上しました。
- ✓ その結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前期比+694百万円(+40.4%)となりました。

2022年12月期 連結業績 3 四半期業績の推移



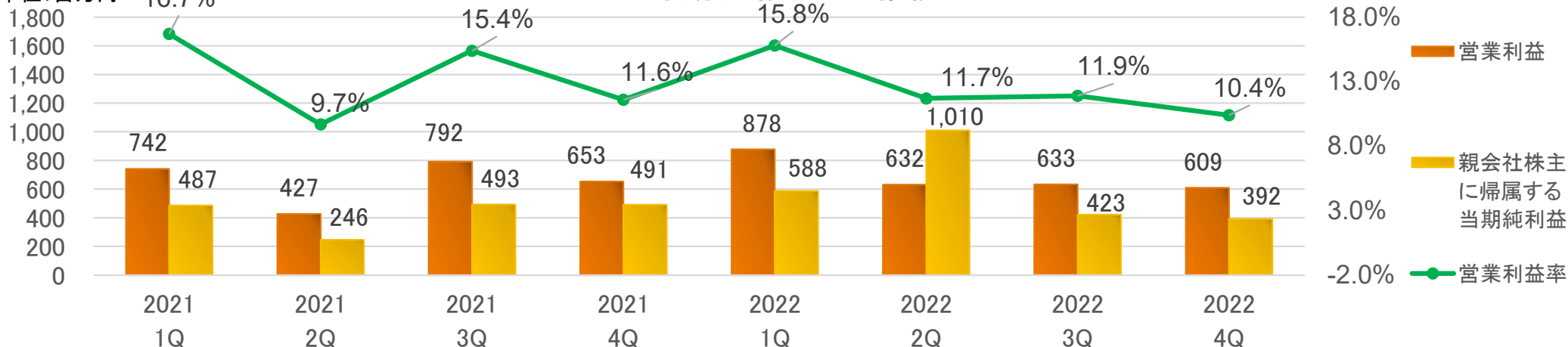
単位:百万円

四半期 連結売上高の推移



単位:百万円

四半期 連結利益の推移

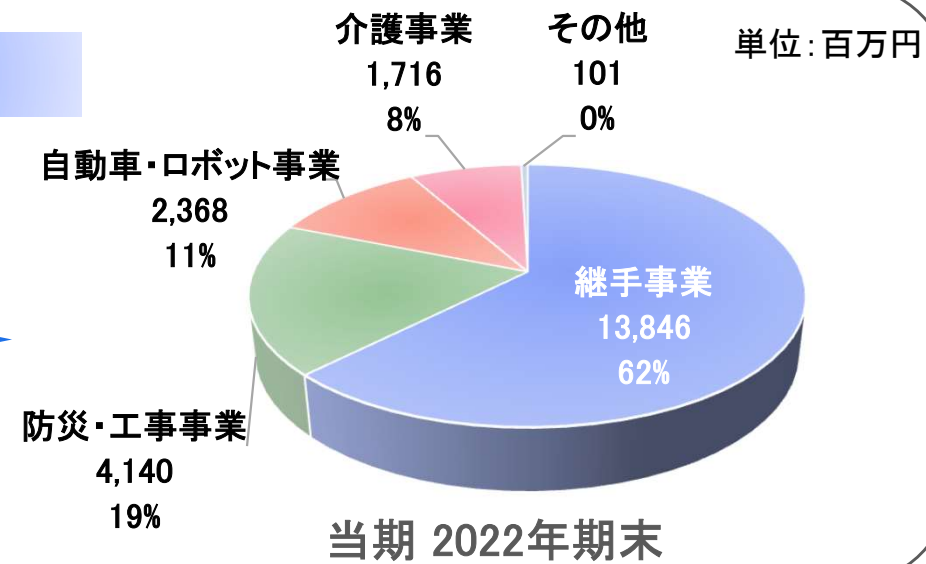
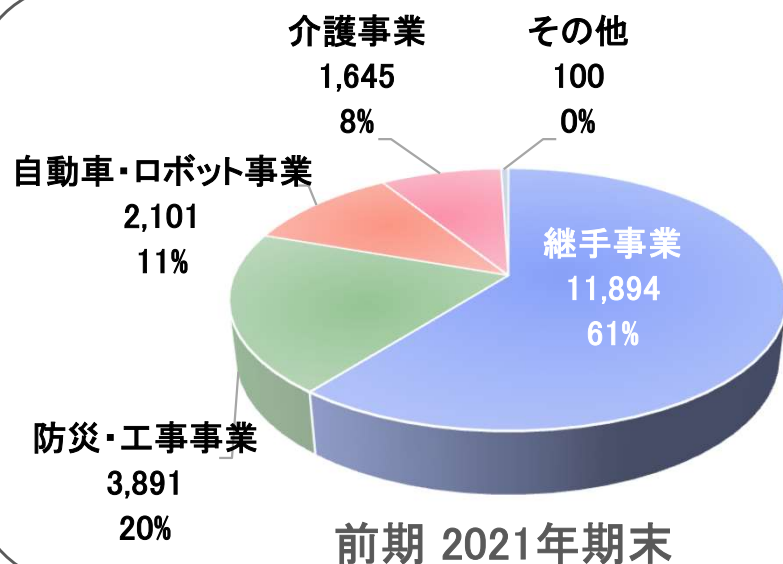


- 連結売上高は、全ての四半期が、前年同四半期を上回り、安定的に推移しました。
- 円安要因を含む原材料価格の上昇等が生じる中、生産性の向上を進める等、営業利益率の維持に努めました。
- 2022年2Qの親会社株主に帰属する四半期純利益が大きいのは、連結子会社であった(株)アクアリザーブの吸収合併に伴う税効果によるものです。

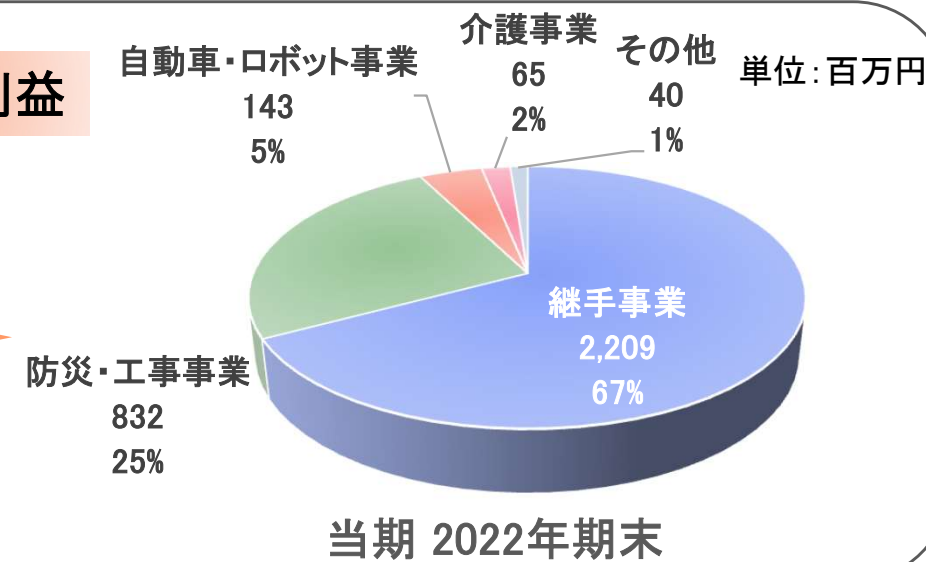
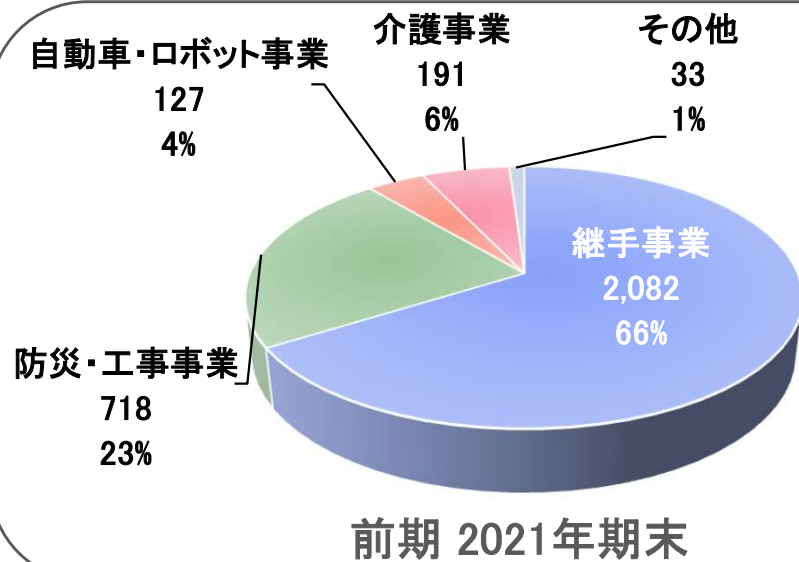
2022年12月期 セグメント構成比



売上高



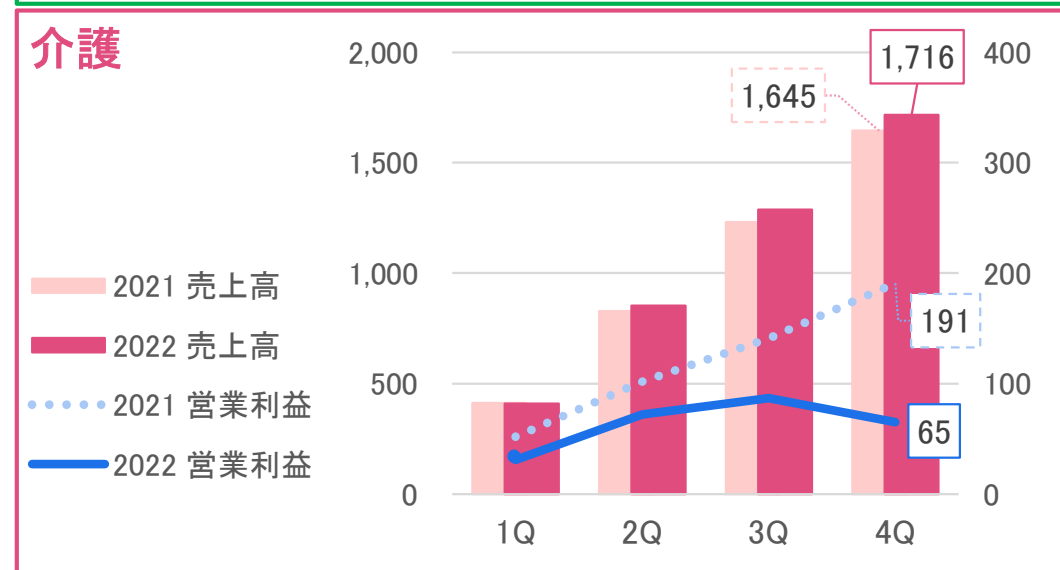
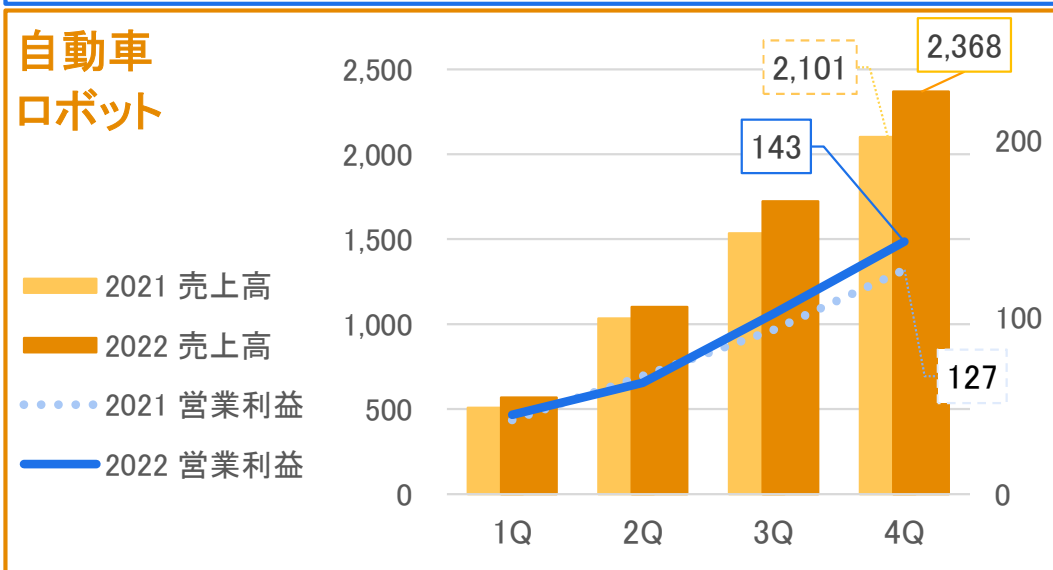
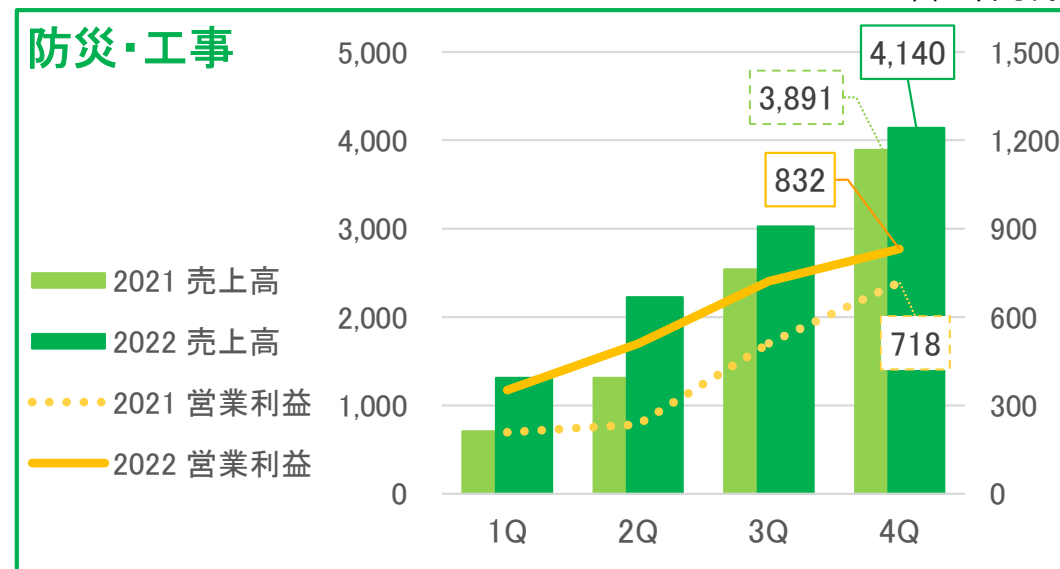
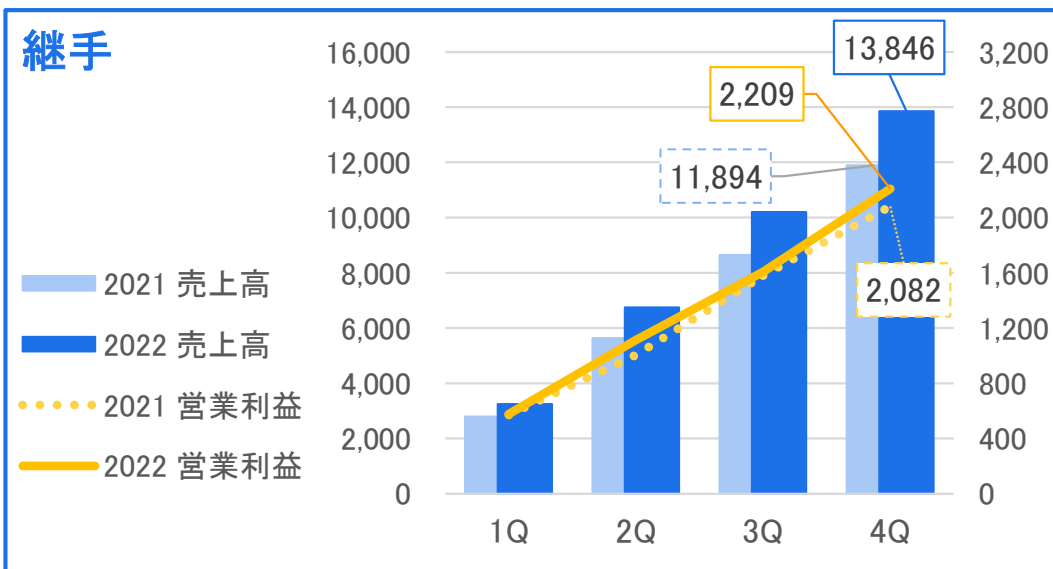
セグメント利益



2022年12月期 セグメント業績 前年同期比(累計)



単位:百万円



- 累計売上高は、4つの事業セグメント全てが前期比プラス、累計営業利益は、3つの事業セグメントが前期比プラスでした。
- 介護事業は、滞留在庫の評価減等から、4Qに営業利益が減少しました。

◆ 継手事業(1)



- 継手事業は、全体的に、年間を通じて良好な推移となりました。
- 売上高・営業利益ともに、4Qは、上場来最高額の四半期業績となり、通期業績も上場来最高額を更新しました。
- 円安要因を含む原材料価格の高騰から利益率が低下しましたが、売上高の増加に伴い営業利益が増加しました。

➤ フレキシブル継手

- ✓ スプリンクラー用が、市場シェア拡大と、首都圏を中心とした再開発事業に伴う消防設備工事の増加から、売上を伸ばしました。
- ✓ 水道用フレキシブル継手が、市場シェア拡大と、SDF工法による水道本管の交換工事件数の回復から、業績が回復しました。

◆ 継手事業(2)

➤ 伸縮管継手

- ✓ 上期に発電所向けの売上が好調であったため、前期比プラスとなりました。

➤ 真空機器

✓ 半導体分野

NAND型メモリー工場の設備工事で、半導体の供給不足から工事の延期が発生しましたが、半導体製造装置や半導体関連の精密機器等の装置需要が高まり、装置メーカー向けの出荷が大きく増加したため、半導体分野全体では、大きく売上を伸ばしました。

✓ 長尺ホース(チラーホース、クライオホース)

クライオホース(極低温用)が、年間を通じて好調でした。

✓ 海外向け出荷(上海工場)

3月から5月に掛けて、中国上海市における新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウン(都市封鎖)の影響を受けましたが、その後は回復し、前期比で大幅なプラスとなりました。

➤ 防災用貯給水タンク

- ✓ 2022年2Qに、防災用貯給水タンク事業を営んでいた連結子会社(株)アクアリザーブを吸収合併し、事業セグメントを、防災・工事事業から継手事業に変更しました。

- ✓ 戸建住宅用の小型製品が分譲住宅で採用される等、販路拡大を進めておりますが、2022年12月期の収益は、前期並みでした。

- 以上のことから、継手事業の前期比は、売上高+1,952百万円(+16.4%)、営業利益+127百万円(+6.1%)となりました。

◆ 防災・工事事業

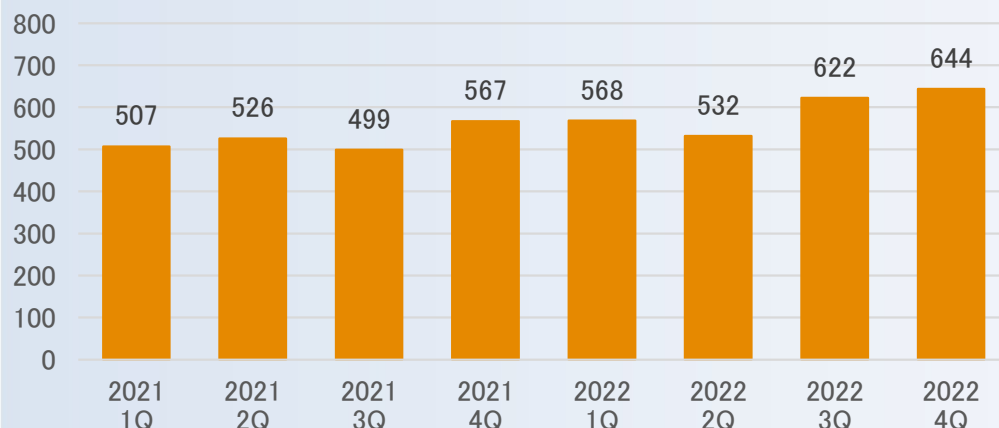


- 防災・工事事業は、売上計上のタイミングから四半期業績に変動が生じておりますが、通期で大幅な増収増益となりました。
 - 消防設備工事は、首都圏再開発の大型工事が多い状況が続いております。
 - ✓ 1Qは、首都圏再開発を中心とした大型の工事案件を複数売上計上し、大幅な増収増益となりました。
 - ✓ 4Qは、利益率の低い案件の計上が集中してしまい、利益率が低下しました。
- 以上のことから、防災・工事事業の前期比は、売上高+248百万円(+6.4%)、営業利益+114百万円(+15.9%)となりました。

◆ 自動車・ロボット事業

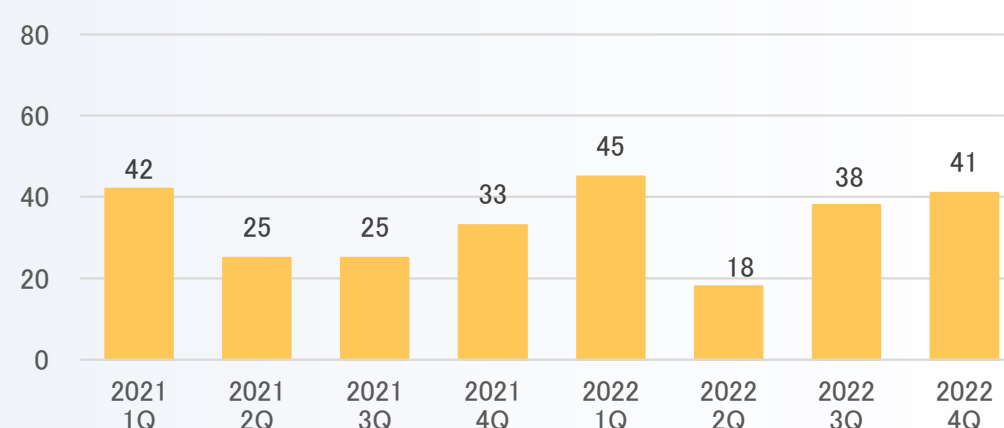
売上高の推移

単位:百万円



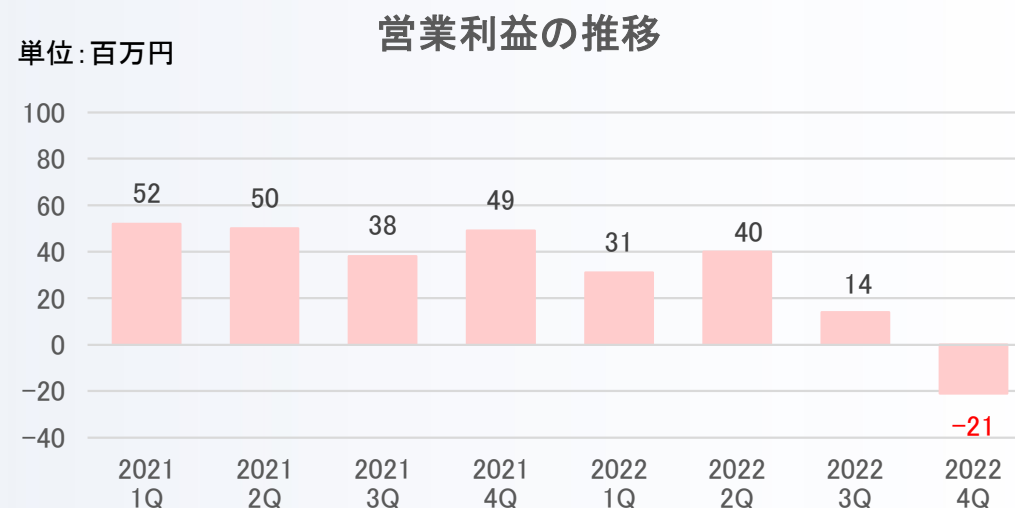
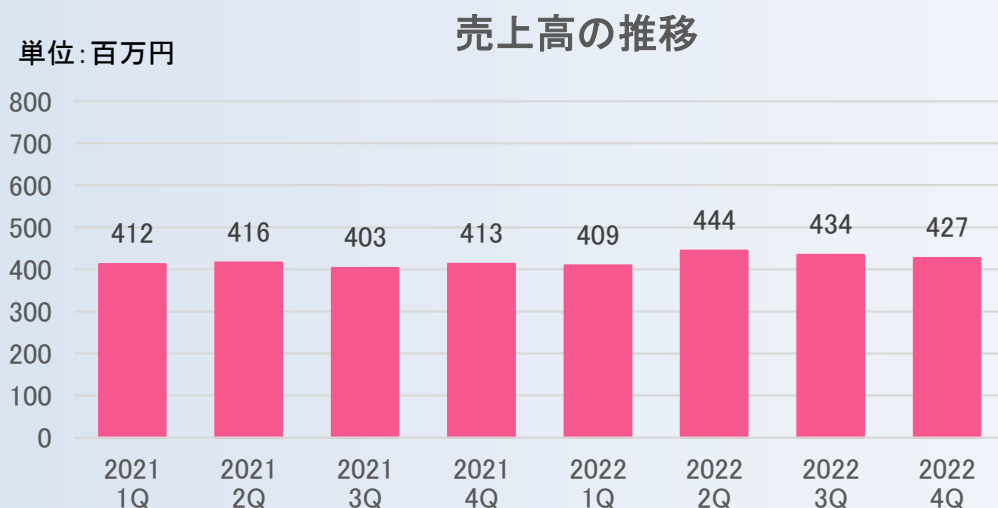
営業利益の推移

単位:百万円



- 自動車分野は概ね前期並みでしたが、ロボット分野が好調なため、セグメント全体で増収増益となりました。
 - 自動車分野
 - ✓ 自動車分野全体は、概ね前期並みでしたが、トラック向けの金属部品は、順調に伸びています。
 - ロボット分野
 - ✓ ロボット分野は、ロボットアーム用シャフトの需要が、引き続き拡大しており、増収増益を継続しています。
- 以上のことから、自動車・ロボット事業の前期比は、売上高+267百万円(+12.7%)、営業利益+16百万円(+13.3%)となりました。

◆ 介護事業



- 当期は、事業承継と吸収分割により、他社から介護事業を取得しましたが、その効果が未だ売上高の微増に留まっているため、事業取得費用が減益要因となっています。
- また、レンタル市場の競争激化、レンタル原価の上昇、介護業界の人員不足等も、減益要因となっております。
- 4Qは、滞留在庫の評価減を行ったため、大幅な減益となりました。
- 以上のことから、介護事業の前期比は、売上高+71百万円(+4.3%)、営業利益▲125百万円(▲65.7%)となりました。

2. 2023年12月期 業績予想

2023年12月期連結業績予想 SUMMARY



◆ 連結業績予想

単位:百万円

	2Q累計		通期	
	2022年 業績	2023年 予想	2022年 業績	2023年 予想
連結売上高	10,972	12,000 (+9.4%)	22,174	25,500 (+15.0%)
連結営業利益	1,510	1,300 (▲13.9%)	2,752	3,300 (+19.9%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,598	850 (▲46.8%)	2,413	2,200 (▲8.8%)

● 連結売上高

- 2023年12月期は、半導体関連、再開発事業、データセンター等の大型工事案件が下期に偏っているため、半導体分野の工事関連(継手事業 真空機器)と消防設備工事(防災・工事事業)の売上が、下期偏重となる予想です。そのため、連結業績予想も、下期の収益が高い予想といたしました。
- 同じ半導体分野でも、装置メーカー向け製品(継手事業 真空機器)は、安定的に業績を伸ばす見込みです。

● 連結営業利益

- 上期は、円安要因を含む原材料価格の高騰による利益率の低下を加味し、前期比マイナスの予想としました。
- 下期は、半導体関連、再開発事業、データセンター等の工事が増加することから前期比プラスに転じ、通期でプラスとなる予想です。

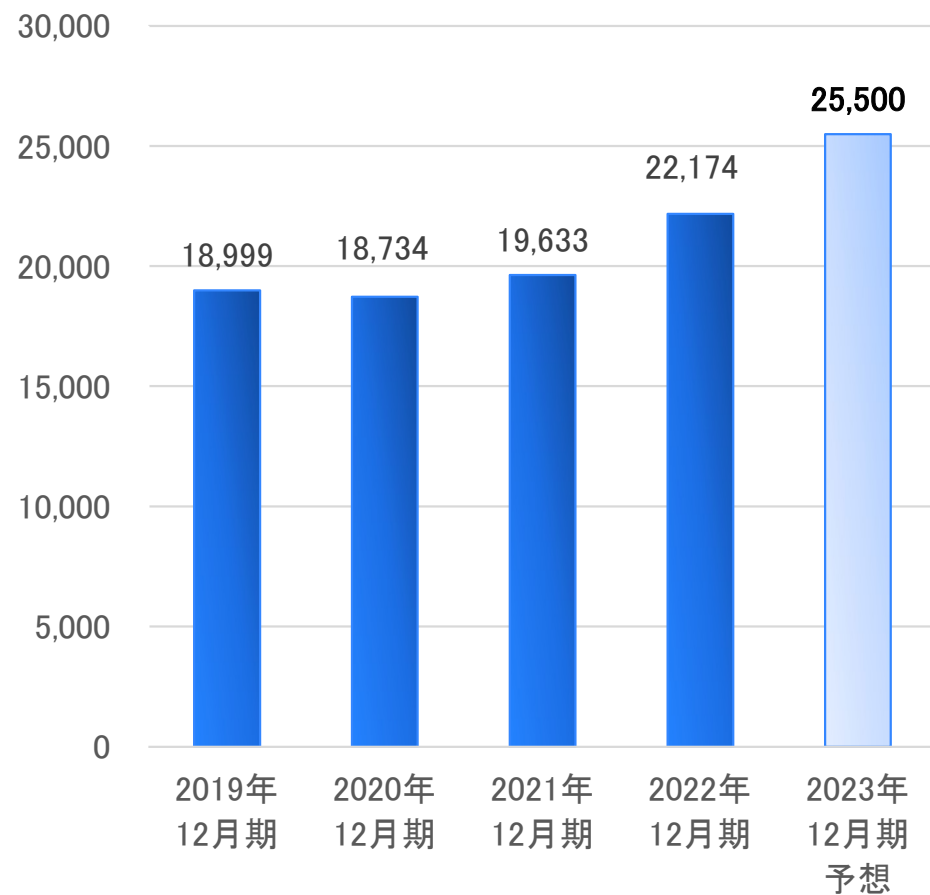
● 親会社株主に帰属する四半期純利益

- 2022年12月期は、吸収合併に伴う法人税等調整額(益)566百万円を計上しているため、2022年12月期の親会社株主に帰属する四半期純利益2,413百万円から、法人税等調整額(益)566百万円を差し引いた金額約1,850百万円に対し、収益の増加等を加算し、2,200百万円の予想としました。

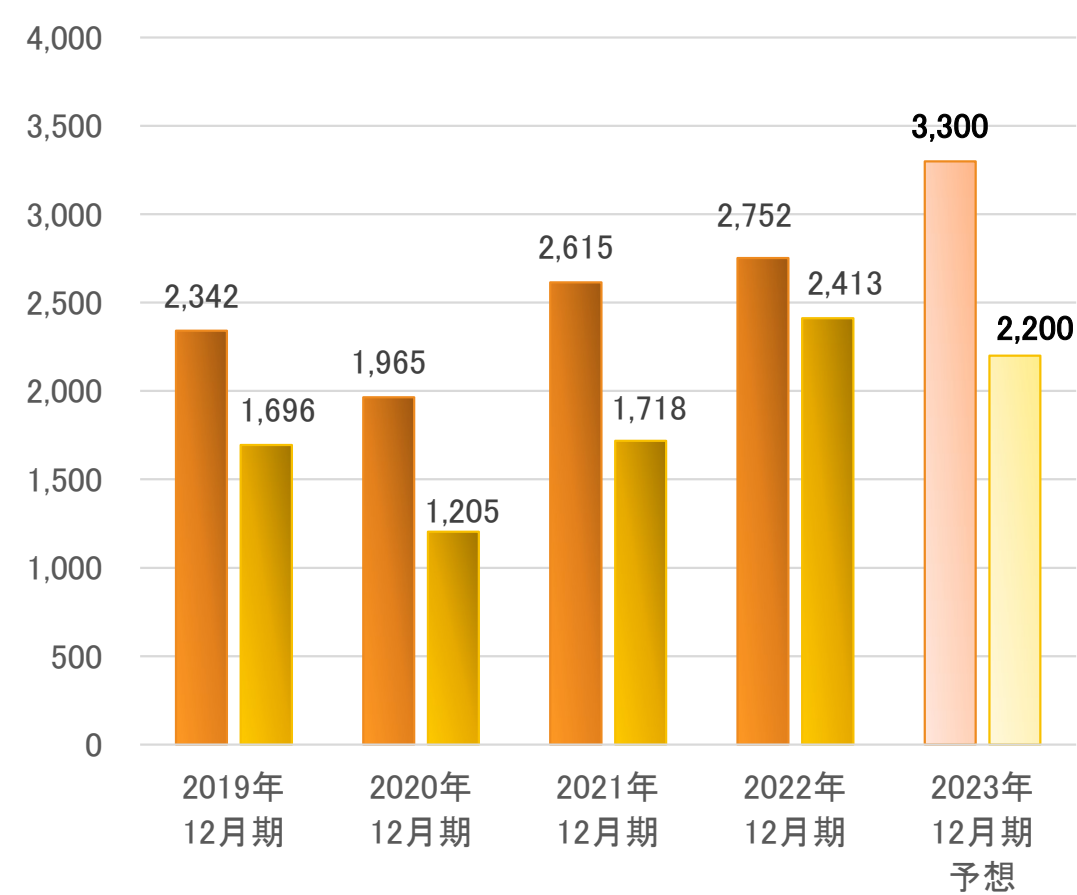
2023年12月期連結業績予想(直近4年間の実績と比較)



単位:百万円



単位:百万円



◆ 継手事業

- 全体的に良好な推移となり、引き続き売上高が増加する見込みです。
- 利益は、原材料価格の高騰と円安の影響から厳しい状況が続くものと思われませんが、売上高の増加に伴う利益の増加を目指して参ります。
 - フレキシブル継手
 - ✓ スプリンクラー用等を中心に、全体的に好調な売上を維持する見込みです。
 - 伸縮管継手
 - ✓ 市況は安定的であります。個別の大型案件により、業績が変動する可能性があります。
 - 真空機器
 - ✓ 2023年12月期も、近年同様に、半導体分野の売上増加が重要と考えております。
 - ✓ 半導体製造装置や半導体関連の精密機器等の装置メーカー向け出荷が、国内・海外ともに、2023年12月期も増加する見込みです。
 - ✓ NAND型メモリー工場の設備工事は、半導体不足から、長期化する可能性を考慮した予想としております。
 - 防災用貯給水タンク
 - ✓ 分譲住宅の市場等、新規市場の開拓を進め、増収増益を目指します。

◆ 防災・工事業

➤ 消防設備工事

- ✓ 半導体関連、首都圏等の再開発事業、データセンター等の大型工事が下期に増加し、増収増益となる見込です。
- ✓ 案件ごとの進捗、利益率により、四半期ごとの収益には、増減が生じるものと思われます。

◆ 自動車・ロボット事業

➤ 自動車分野

- ✓ 自動車分野は、引き続き堅調に推移する見込みです。

➤ ロボット分野

- ✓ 需要は拡大傾向にあり、ロボット市場の成長と共に、売上が増加するものと思われます。
- ✓ 既存製品の周辺市場につきましても、開拓を進めてまいります。

◆ 介護事業

➤ 介護用品のレンタル事業

- ✓ 2022年12月期に実施した事業承継や吸収分割を含むM&A等を積極的に活用し、事業拡大を目指してまいります。

3. 配当金について

2022年12月期と2023年12月期の配当予想



		1株あたり配当金(円)		
		中間配当金	期末配当金	合計(年間配当)
2022年12月期	期初の配当予想	20円00銭	21円00銭	41円00銭
	7/14修正の配当予想	21円00銭	23円00銭	44円00銭
	2/10修正の配当予想	21円00銭	33円00銭	54円00銭
2023年12月期	期初の配当予想	27円00銭	27円00銭	54円00銭

◆ 2022年12月期の配当予想

年間を通じて、業績と市場環境が概ね良好であったことから、上記表の通り、2022年7月14日と2023年2月10日に、配当予想の修正(増配)を行いました。

期初に公表いたしました配当予想との比較では、年間13円(中間1円、期末12円)の増配予想となり、この場合の配当性向は、40.9%であります。

なお本件は、2023年2月21日開催予定の取締役会における決議をもって、正式に決定いたします。

◆ 2023年12月期の配当予想

2022年12月期は法人税等調整額(益)を計上しており、当該税効果は単年度限りであることから、2023年12月期の親会社株主に帰属する当期純利益を減益予想といたしましたが、配当予想につきましては、上記表の通り、2022年12月期と同額の年間54円(中間27円、期末27円)の配当予想といたしました。

当社は、株主様に対する利益還元について、安定的かつ継続的に実施することを重要な経営課題と認識し、経営環境、将来の事業展開、業績の推移及び長期的な事業展開と財務体質・収益基盤の強化、並びに内部留保の充実等を総合的に勘案したうえで決定し、安定的かつ継続的な配当に加え業績連動により年間配当性向40%以上を目標とすることを基本方針としております。

4. 決算説明動画のご案内

2022年12月期 決算説明動画のご案内



- ◆ 2022年12月期 決算説明動画の配信を、下記の通り予定しておりますので、ご案内申し上げます。

◆2022年12月期 決算説明動画 の概要

- 公開日時 2023年2月28日(火)17:00(予定)
- 掲載場所 当社ホームページ内のIR資料ページ
- 説明者 代表取締役社長 前島 岳

- ◆ 動画は、どなたでもご視聴いただけます。
アナリスト・機関投資家に限定したものではありません。
- ◆ 2023年8月頃までの配信を予定しております。
- ◆ ご視聴賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



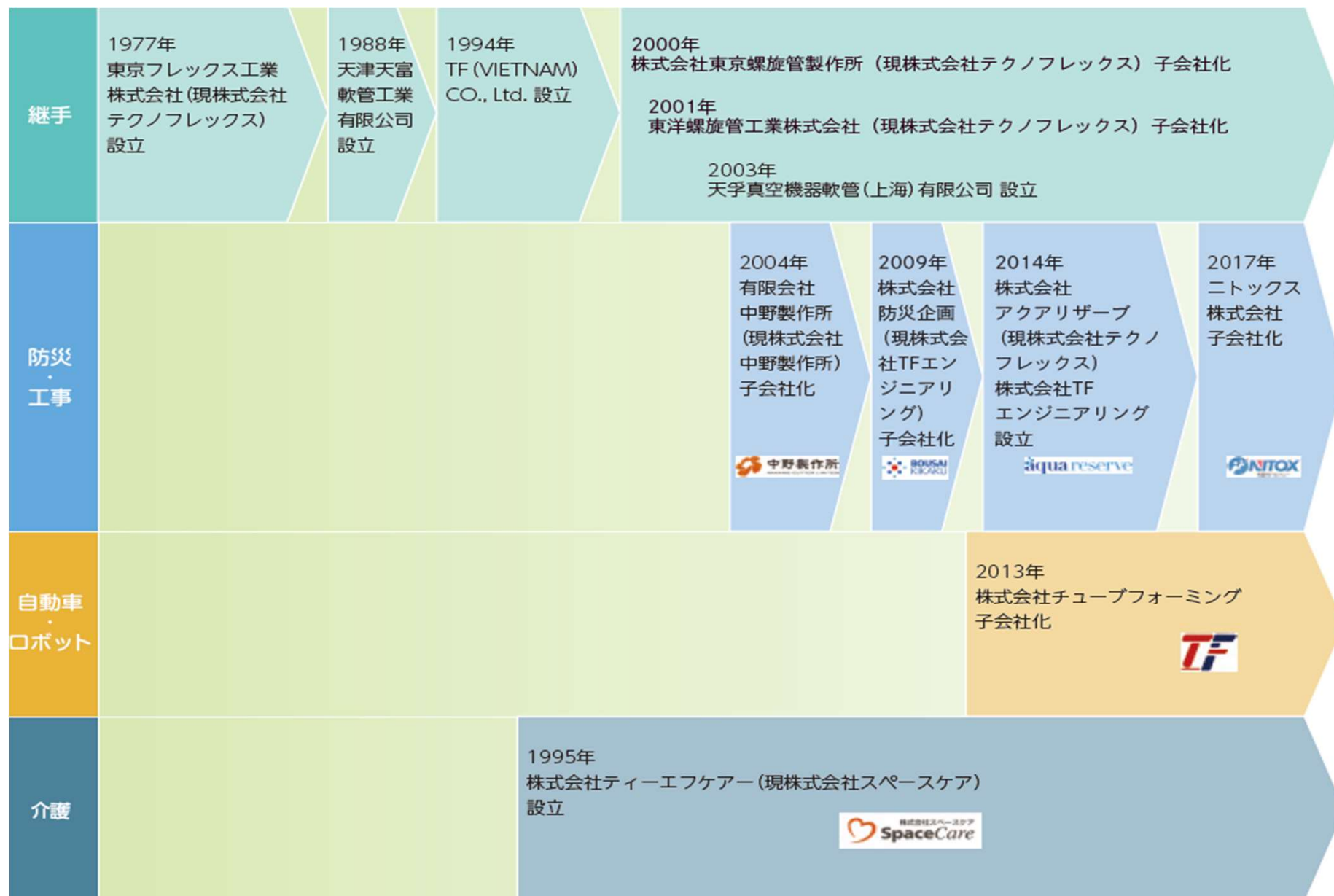
当社ホームページ

- トップページ <https://www.technoflex.co.jp/>
- IR資料 <https://www.technoflex.co.jp/ir/material.html>

※ 2月20日までは、「2022年12月期 第2四半期決算説明動画」を配信しております。

(補足資料) テクノフレックスの概要

会社名	株式会社テクノフレックス
代表者名	代表取締役社長 前島 岳
本社所在地	東京都台東区蔵前一丁目5番1号
資本金	10億円(2022年6月30日現在)
設立日	1977年8月
決算期	12月決算
事業内容	継手事業 / 防災・工事事業 / 自動車・ロボット事業 / 介護事業
従業員数	単体:385名(2022年12月31日現在) 連結:1,022名 ※臨時雇用者を含む



皆様の生活とのかかわり



◆ テクノフレックスグループは、「生活インフラ」「産業・先端技術」「防災」「介護」の4つの分野で、皆様の暮らす社会を支える事業を展開しています。

The infographic is a grid of images and text boxes. At the center is a white circle with the text "TECHNOFLEX GROUP".

- 生活インフラ (Life Infrastructure):** Includes "水道・ガス" (Water/Gas) with an image of a truck installing an "SDFフレキ" (SDF flex) into a water main, and "エネルギー" (Energy) with an image of an "H2 Station" hydrogen station.
- 産業・先端技術 (Industry/Advanced Technology):** Includes "半導体" (Semiconductors) with an image of a "半導体工場" (Semiconductor factory), "医療機器" (Medical Equipment) with an image of an "MRI装置" (MRI device), and "自動・無人化" (Automation/Unmanned) with an image of "産業用ロボット" (Industrial robots).
- 介護 (Care):** Includes "リフォーム" (Renovation) with an image of a hand holding a "手摺り" (Handrail) for a toilet, "販売・レンタル" (Sales/Rental) with an image of a "介護用ベッド・補助具" (Nursing bed/aid), and "リネン" (Linens) with an image of a person handling "いつも清潔な介護用品" (Always clean nursing supplies).
- 防災 (Disaster):** Includes "地震" (Earthquake) with an image of "インテリジェントビル" (Intelligent buildings), "風水害" (Flood/Hurricane) with an image of water being collected from a "マルチアクア" (Multi-aqua) tap during a water outage, and "火災" (Fire) with an image of a "スプリンクラー消火設備" (Sprinkler fire equipment).

※ 上記の分野は、当社グループの事業を、皆様の生活に係る4つの分野に整理したものであり、当社の会計上の事業セグメントとは異なります。

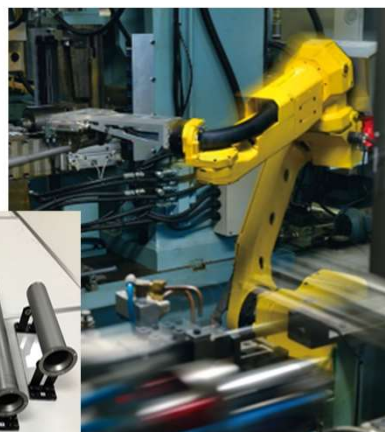
当社グループの4つの事業セグメント



① 継手事業



③ 自動車・ロボット事業



② 防災・工事事業



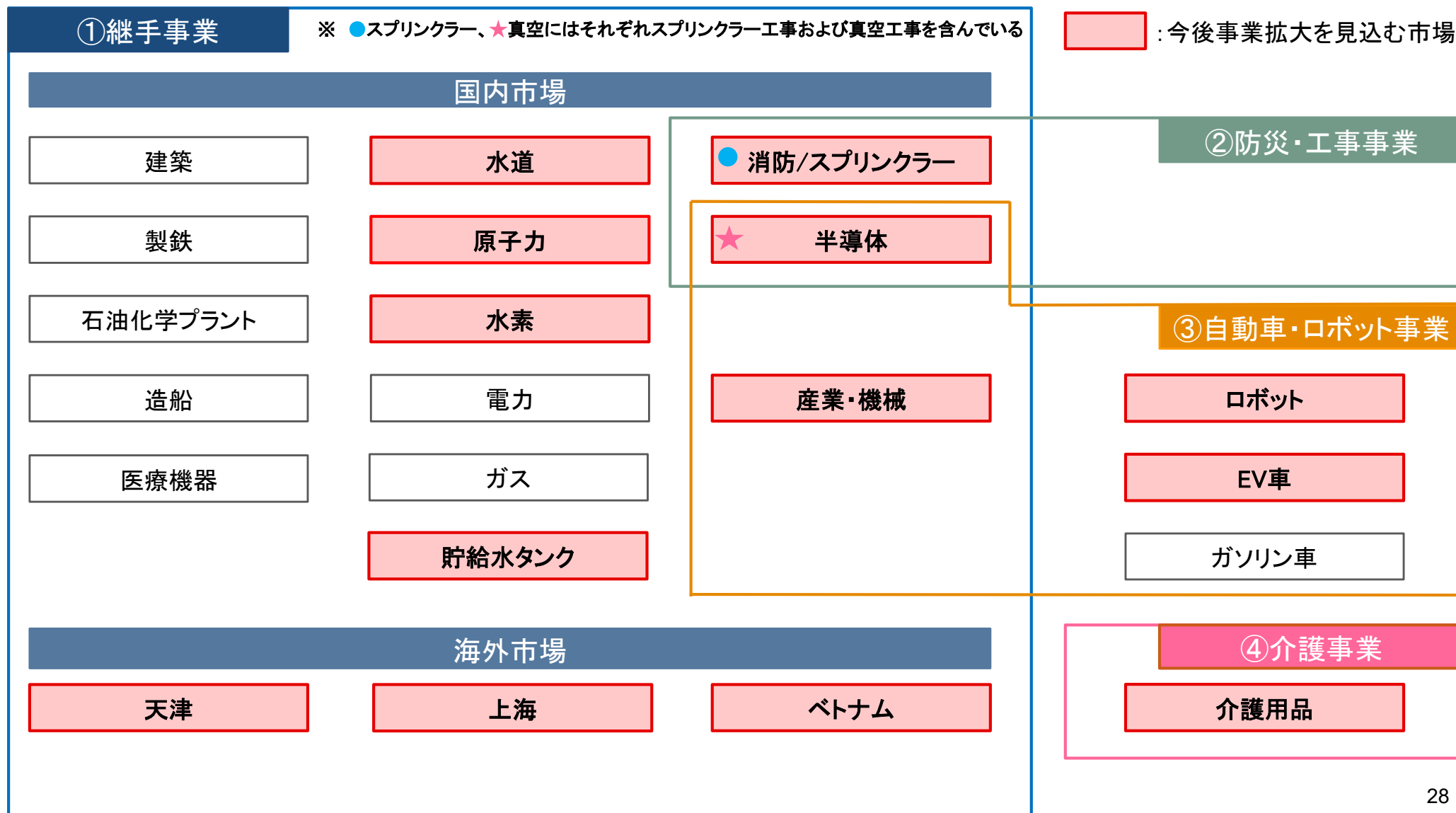
④ 介護事業



マーケットと 4つの事業セグメント



- 当社グループがターゲットとするマーケットは多岐にわたりますが、特に事業拡大を見込む市場としては水道、原子力、水素、消防/スプリンクラー、半導体、産業・機械、貯水タンク、ロボット、EV車、介護用品、海外市場が挙げられます。



- ◆ 管継手 : 管と管のつなぎ目
 - 固定式 : T字型・L字型など固定形状の継手
 - 可撓式 : 継手自体が曲がったり伸び縮みしたりできる継手

テクノフレックス

◆ テクノフレックスの管継手は大きく3種類

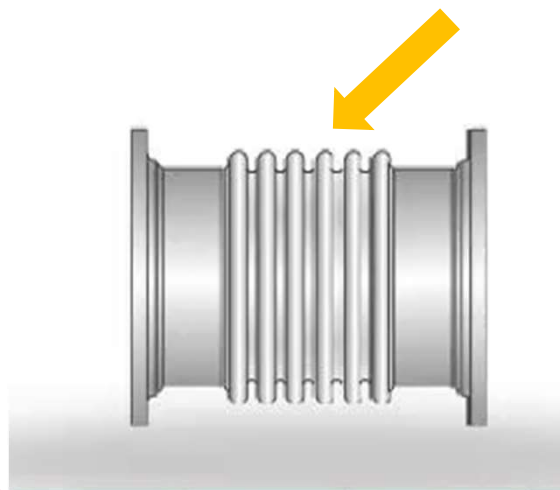
【フレキシブル継手】

全体が曲がる継手



【伸縮管継手】

波状の部分で伸縮が可能



【真空機器】

真空配管用の継手・金属部品



事業セグメント 1 継手事業 ①フレキシブル継手

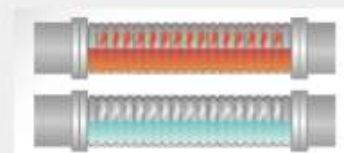
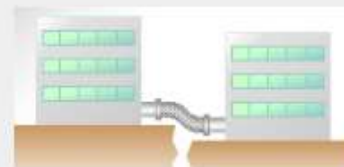


- ◆配管作業を容易に ▶ 作業効率向上。経験の浅い作業員でも設置でき、人手不足の解消にも貢献。
- ◆耐震性 ▶ 地震への対策から、耐震性の需要が高まる。

町のあちこちに
テクノフレックス



変位吸収



機械的な動作に
対応



振動吸収



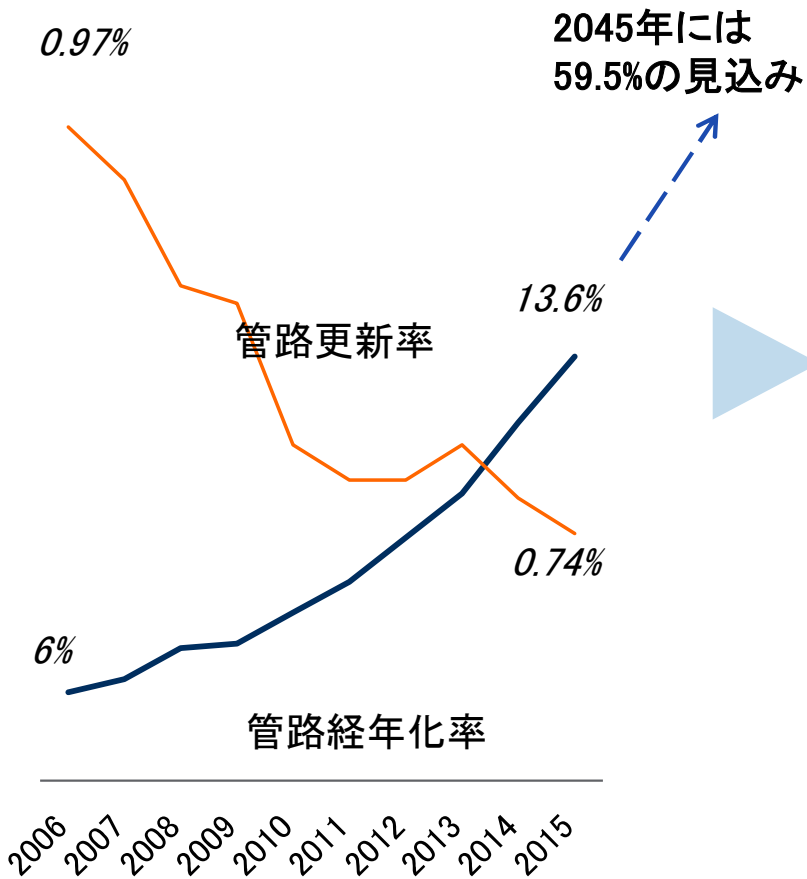
作業効率



大地震で曲がっても
オイル漏れの無い
フレキシブル継手の例



水道の老朽化は進む一方で、
管路更新が進んでいない。



SDF工法

- 掘り起こし困難な場所に最適。
- 既存の水道管の中を通して補修。



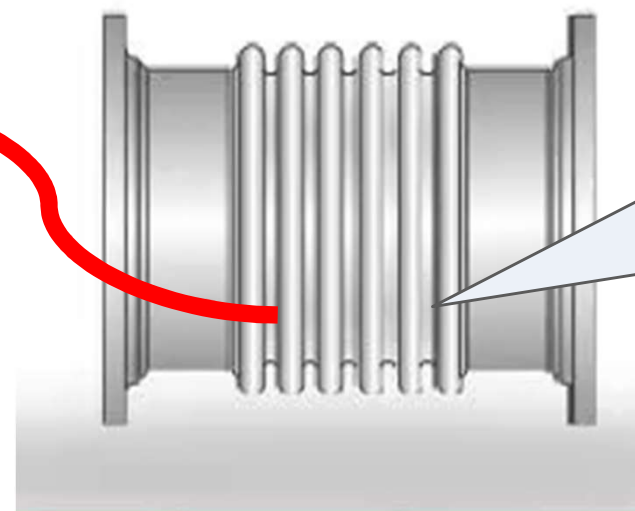
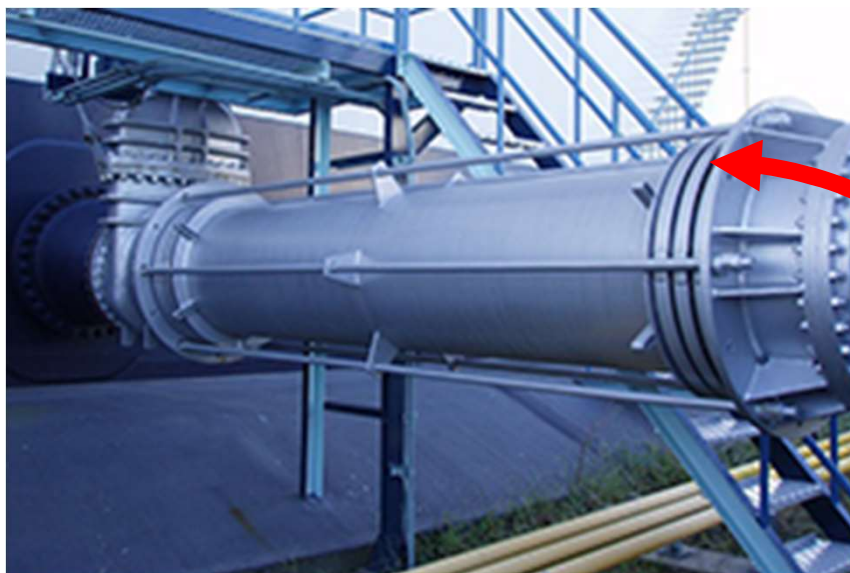
SDF工法向けにフレキ管を供給

第1回インフラメンテナンス大賞
(厚生労働大臣賞)

出所: 最近の水道行政の動向について(厚生労働省)

- ◆ 地震や熱膨張など、様々な負荷から設備機器と配管を守ります。
- ◆ 耐震性に優れ、配管の破損や脱落による流体漏洩等の2次災害を防止。
- ◆ 設置場所

エネルギー関連	石油・化学プラント、電力プラント、LNGプラント、LNG船、水素ステーション、水素運搬船など。
ライフライン	ガス・水道など。
大規模産業設備	製鉄プラントなど。



波状の部分が、伸縮します。角度を付けることもできます。

- ◆ 真空配管とは、微細なゴミも嫌う設備などに設置されるクリーンな配管のこと。
 - 真空機器の製品は、厳しい検査に合格した、気密性に優れた製品。
 - ステンレス製の継手は、組織を均一化するため、熱処理を施す。
- ◆ 製品供給に加え、配管の設置工事・プレハブ加工も一括で受けられるのが、当社の強み。
- ◆ 使用用途

半導体製造装置、FPD製造装置、真空ポンプ、医療機器、医薬品・食品工場などの機械装置

装置間の真空配管

真空ポンプの配管

温度調節用の配管(チラーホース、クライオホース)

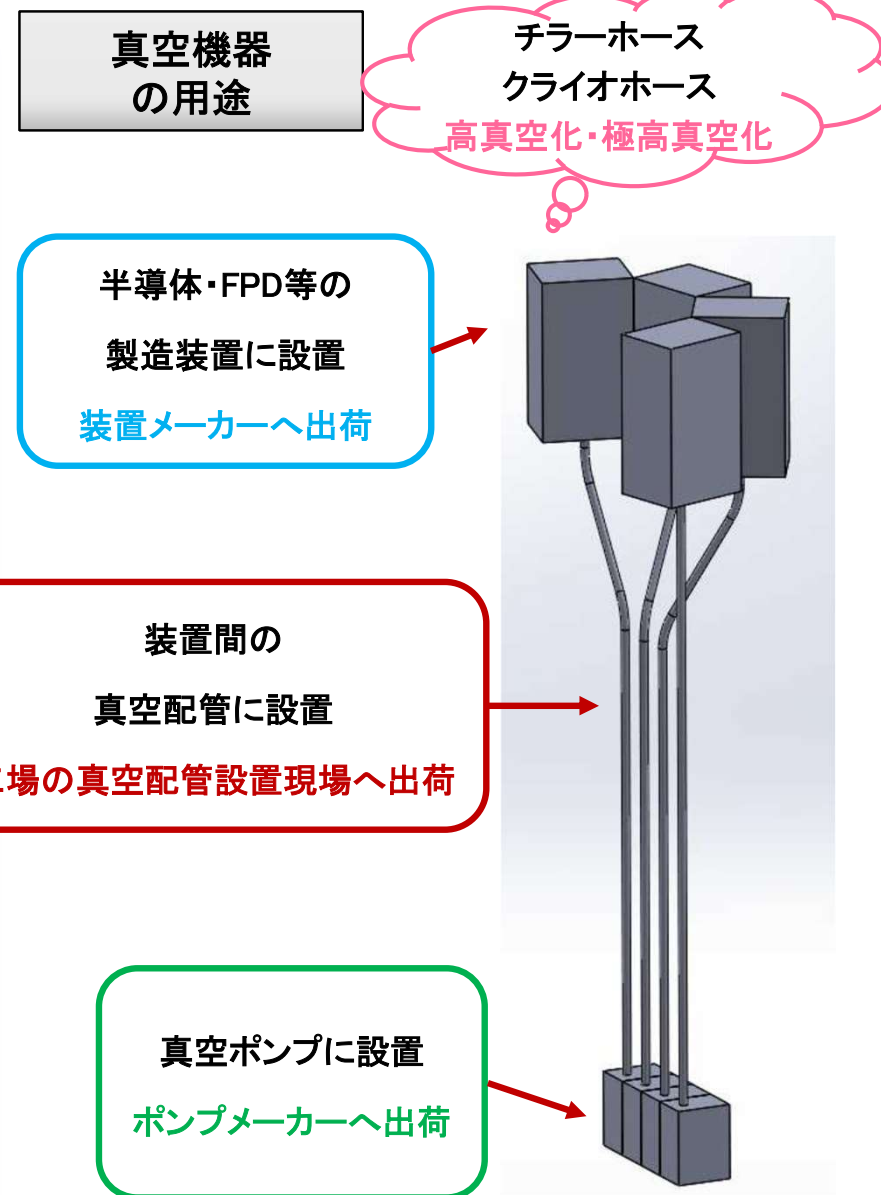


● 当期の状況

- ◆ 世界的な半導体需要の高まりから、半導体製造メーカーによる工場の新設や製造ラインの増設が活況。
- ◆ 半導体の製造(特に前工程)にはクリーンルーム等の真空空間が必要なため、真空ポンプと真空配管を設置。
 - **真空機器の需要が拡大。**
- ◆ 当社の真空機器は、**半導体・FPD等の製造装置用**、**真空ポンプ用**、**装置間真空配管用**の3つの用途で、使用。
- ◆ **真空配管の設置工事と工場でのプレハブ加工**も請け負っており、製品と工事の両面でサポート。

● 成長イメージ

- ◆ 真空配管は、半導体のみならず、様々な分野の工場で需要が増加。
- ◆ 高度な医療用の診断装置に設置。
- ◆ **チラーホース、クライオホース**のマーケットシェア獲得。
 - ※ 低温・極低温の空間をつくるための冷却用長尺ホース。近年は加温でも使用。半導体工場等では、高真空・極高真空の空間をつくるためのクライオポンプとクリーンルームとをつなぐ配管に設置。



防災用貯給水タンク「マルチアクア」

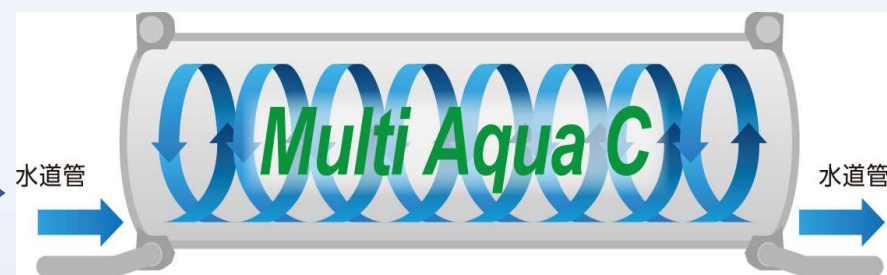
- マルチアクアは、平常時には、給水配管（水道管）の一部として機能しながら貯水を行い、災害等による断水時には、直前まで貯水されたタンク内の水道水を供給する、貯給水タンクです。
- 水道水を使うたびに、マルチアクア内に新しい水道水が貯水されます。そのため、備蓄水のように、消費期限の管理や交換を行う手間が生じません。
- 災害発生時には、飲用の他、傷口の洗浄等にも水が必要です。傷口の洗浄には水道水が適しているとされており、マルチアクアは、飲用にも傷口の洗浄にもご活用いただけます。
- 戸建住宅用には、設置場所に困らない、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。
- ペットボトル等の樹脂製容器の使用を削減する効果がございます。サステナブルな社会の実現に、貢献して参ります。



戸建住宅用には、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。

タンク内の水が循環して常に新しい水を貯水します。

企業のBCP向け製品「マルチアクアC」。



Multi Aqua C

マルチアクア

3つの“守る”



- ◆ 配管を軸に、川下戦略による防災・工事事業への参入。
- ◆ 防災・工事事業には、2つの事業。

消火設備の配管工事 配管のプレハブ加工

- スプリンクラー等の消火設備の配管工事
- 工場で行う配管のプレハブ加工



自動切断機

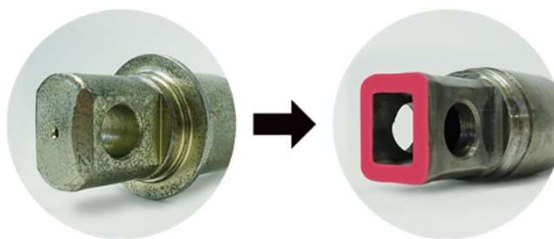
水道管及び電柱の 切断装置

- 自走しながら配管や電柱を切断。
- 東京都が推奨する無電柱化に貢献。



自動車・ロボット事業

- 金属塑性技術を生かした、金属部品の軽量化、材料費の低減及び強度増。
- 多くの自動車メーカーで使用。
- ロボット分野の需要拡大。
- 半導体工場等の機械装置用部品にも採用。



従来製品

パイプ化製品

介護事業

- ケアプランに沿った福祉用具レンタル
- 福祉用具の販売
- 介護用マットレスの洗浄
- 住宅バリアフリー化工事
- 介護サービスの創造



テクノフレックスグループの将来を見据える上で重要なキーワード



■ 当グループを取り巻く環境に大きなインパクトを与える重要キーワードを5つピックアップしました

重要キーワード	市場にもたらす変化	該当セグメント
1 気候変動等による災害増加に対する 防災意識の高まり (国土強靱化計画)	✓ 防災設備需要の拡大 ✓ 国民の防災意識の高まり	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
2 戦後日本が築いてきた 社会インフラ老朽化対応 (水道の老朽化対応、都市再開発)	✓ 水道整備関連の予算拡充に伴う取替需要増加 ✓ 都市再開発に伴うビル等の建替需要増加	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
3 AIと自動化 (5G商用化、ロボティクス)	✓ 半導体市場の拡大 ✓ ロボット市場の拡大	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
4 クリーンエネルギー (脱炭素化、脱ガソリン、脱エンジン)	✓ エンジン搭載車の減少、EV化 ✓ 化石燃料以外の燃料(水素等)の輸送・貯蔵 ✓ クリーンエネルギー設備増設	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
5 ヘルスケア (地域包括ケアシステム推進)	✓ 在宅介護が支援されることによる、各家庭向けの福祉用具需要の高まり	✓ 介護事業 ✓ 自動車・ロボット事業

国内マーケットの動向サマリ(1/3)



- 産業・機械と電力は成長、製鉄、石油化学プラント、ガスは低迷を予想しています
- 建築は、中長期的には需要拡大が見込まれるものの、働き手離職等のリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	建築	✓ 中長期的には都市再開発や防災対策に伴う需要を見込めるものの、働き手の大量離職等の不安要素があり下振れのリスクあり
	製鉄	✓ 主要販売先である造船・航空機について今後低迷が予想されることや、EV化により鉄の必要量が減少する可能性があり、今後の見通しは厳しい
	石油化学プラント	✓ 石油化学製品の供給過多やプラスチックに対する規制強化等により、石油化学業界にて積極的な設備投資を期待することは難しいため、低迷傾向が継続するリスクあり
	産業・機械	✓ 半導体等の成長産業での設備投資が見込まれる。 ✓ メインユーザー層である中堅・中小企業の設備投資は冷え込む予想。
	ガス	✓ 人口減少や温暖化対策等による需要減少リスクあり
	電力	✓ 政府の推進する再生エネルギー導入拡大に向け、送電インフラ整備に伴う設備投資需要が見込まれることから、今後の見通しは良好

国内マーケットの動向サマリ(2/3)



- 消防・スプリンクラー、水道、半導体、水素は成長、造船は低迷を予想しています
- 原子力は堅調予測ですが、再生エネルギーの動向次第で縮退するリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	造船	✓ 将来的には水素運搬船に期待が持てるが、当面の間は、コロナの影響により輸送量が減少し、外部環境としては厳しい見通し
	消防スプリンクラー	✓ スプリンクラー設置義務の課される大型施設の新設が引き続き見込まれること、及び過去に設置したスプリンクラーの取替需要が見込まれることから、今後の市場動向は明るい見通し
	水道	✓ 水道管路の老朽化が進んでおり、今後の更新需要が期待される ✓ 成長ドライバーであるSDF工法に対する需要も今後増加見込み
	半導体	✓ 当社グループのターゲットとするメモリーの市場規模は今後右肩上がりに成長見込み ✓ NANDシェア上位5社による大規模設備投資が進行中。
	原子力	✓ 政府による原子力活用の提言により、当面の需要は堅調予測 ✓ 一方で再生エネルギーの成長状況により、将来的には稼働が抑えられ縮退するリスクもあり
	水素	✓ 水素燃料の市場規模が今後拡大していくことに伴い、今後の見通しは良好
	貯給水タンク	✓ 個人/法人の備蓄水に対する需要の高まりや、災害時の一時滞在施設の設置推進の動きにより、今後の需要は拡大の見通し

国内マーケットの動向サマリ(3/3)



- 消防設備工事、貯水タンク、ロボット、介護事業は成長、ガソリン車は現状維持を予想しています
- EV車は成長見込みの一方、低価格化や社会インフラ整備といった課題を有するため、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
	防災・工事	<ul style="list-style-type: none">✓ 半導体工場、データセンターの増設により、消防設備工事が増加✓ 都市の再開発による建物の高層化・大型化で、消防設備工事が増加
自動車 ロボ ト	ガソリン車	<ul style="list-style-type: none">✓ 自動車需要は世界的に高まりを見せる一方で、EV車の割合が増加していくことから、差し当たっては緩やかな増加/横ばい傾向が予想される
	EV車	<ul style="list-style-type: none">✓ 脱炭素に向けた動きもあり、今後大きく伸長する見通し✓ 一方で低価格化や社会インフラ整備などの課題もあり、普及が遅れるリスクもあり
	ロボット	<ul style="list-style-type: none">✓ 自動車を中心とした低価格化の要請に応える形で需要を大きく拡大していく見通し
	介護	<ul style="list-style-type: none">✓ 少子高齢化の進行に伴い、今後の需要は引き続き伸長していく見込み✓ 高齢者人口の増加と併せて、中国で廉価な福祉用具が流通しており、国内販売市場を開拓できる余地あり

2022年12月期



決算補足説明資料 - 完 -

株式会社テクノフレックス
証券コード:3449